

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：エーゼロ株式会社

上位関連計画にみる地域の将来
 ○西粟倉村のキャッチコピー「生きるを楽しむ」
 ○西粟倉村SDGs未来都市計画
 ローカルベンチャー事業発生数 現状 34事業→目標 50事業（2030年）
 再生可能エネルギーによるCO2削減量 現状 20トン → 目標 3500トン（2030年）
 ○西粟倉村 第5次総合振興計画（2012～2021）
 認定農業者：12人（2011年）→15人（2021年）、耕作放棄地：2ha（2010年）→1ha（2021年）
 鳥獣による農林業被害：3.3千万円/年（2010年）→2.3千万円/年（2021年）
 ○エーゼロ（株）ミッション「人や自然の本来の価値を引き出し、地域の経済循環を育てていく」

②具体的なアクション
 エーゼロ株式会社自然資本事業部が下記を実施
 ・村内のお米を買い取り、ふるさと納税の返礼品として提供する
 ・森の間伐から生まれる端材を熱源とした鰻養殖を進める。貴重な鰻から最高の美味しさを取り出す
 ・森づくりのために捕獲する鹿のお肉を美味しい料理/加工品にして村内外に届ける

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	生物多様性	ふるさと納税での米の流通量	120	1,000		俵
		獣害対策で捕まえる鹿の引取り	100	600		頭
	気候変動	灯油からのCO2-端材活用で低減	4,800	2,400		kg/年
経済	開発	村内の米保管庫数	0	1		箇所
		高付加価値の鰻商品	0	3		商品
		高付加価値の鹿肉商品	1	3		商品
	売上	ふるさと納税を通じた米の流通	3	24		百万円
		エーゼロ鰻商品の売上	9	23		百万円
		エーゼロ鹿肉商品の売上	2	12		百万円
社会	仕事	地域の猟師への鹿買取代金	200	1,200		千円
		米を出荷する生産者数	11	50		人
	関係人口	米、鰻、鹿事業でのパート雇用	1	4		人
		ふるさと納税での寄付者数	1,700	6,000		人

①目指すべき姿
 <食べ物を中心に、村民と村外の応援者をつなぐ”ぐるぐるめぐる経済”が回っている>
 ・西粟倉の自然資本を活用し、村民が多様な形で「生きるを楽しむ」を実現している
 ・その喜びを村外の人にもお裾分けする自然資本事業が成長している
 ・源流域の清涼な水と、寒暖差の大きい気候から生まれる食味値の高い米をちゃんと価値のあるものとして消費者に届けている
 ・米を適切な価値で流通させる事で、高齢が生産者の生きがいを感じ、新規就農者も生み、耕作放棄地が減っている
 ・百年の森林構想事業から生まれる木材を無駄なく使い、端材を熱源として活用した水産業など多様なローカルベンチャーが生まれている
 ・鹿が適正に捕獲され、豊かな下層植生や土壌が育ち、川にアマゴやウナギ等の魚が戻ってきている
 ・村の自然が更に魅力的になり、関係人口が増え、事業に係る人が増え、更に自然が豊かになるというポジティブサイクルが回っている

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	生物多様性	村内 米作付け面積	70	70	2030	100	ha
		鳥獣による農林業被害	3.3	2.3	2030	2	千万円/年
	気候変動	端材の熱源活用ノウハウの横展によるCO2低減量	4,800	2,400	2030	4,000	kg/年
経済	開発	地域の自然から生む特産食品	0	3	2030	5	品目
		売上	11	35	2030	300	百万円/年
社会	仕事	米を出荷する生産者数	11	50	2030	70	人
		エーゼロ自然資本事業部の雇用	9	12	2030	50	人
	関係人口	村を継続応援して下さる方（アプリ村民など）	800	1,200	2030	1,500	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・2020年度にお米の保管庫を設置する事により、西粟倉村の食味値の高いお米を、他地域のお米と混ぜる事なくふるさと納税の返礼品として適切な価値をつけて流通させる。その事により2020年度からお米を出荷する生産者数が増える。2030年頃に現行の担い手農家が引退した後も、米づくりに取り組む村民の数が維持/増加し、米が作付けされる農地が増える。
 ・鰻養殖を通じて、端材を熱源として活用する事業のノウハウが蓄積され、端材/熱を利用した自然資本事業が更に拡大し、CO2排出量の削減と売上向上に繋がる。端材を有効活用する事により、山の整備が更に進み、多様な植生を持った豊かな山が生まれる事で、新たな産業、雇用、関係人口が生まれるスパイラルアップが進む
 ・2020年度に都会の料理人とのコラボレーションで高付加価値の鹿肉商品を開発する事で、エーゼロの鹿肉製品の売上及び猟師の収入が増える。その事により、2030年までに鹿による農林業被害が低減され、米づくりや森づくりが更に盛んになる
 ・米、鰻、鹿肉などを返礼品として提供する事で、2020年のふるさと納税寄付者が増える。アプリ村民票などを活用して、ふるさと納税寄付者を関係人口としてストックして増やす。モノだけではなく、コト/体験も共有する自然資本事業を成長させ、ぐるぐるめぐる経済を広げる